

前立腺がん検診を受ける皆様へ

【この説明書をお読みの上、検診をお受け下さい。】

八潮市では、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳、75歳（年度末年齢）の男性（市民）を対象に前立腺がん検診（PSA検査）を行います。

初期の前立腺がんは、自覚症状がほとんどありませんので、PSA検査（血液検査）を行うことで、がんを早期発見することができると言われていています。また、前立腺がんは早期に発見し、治療を開始することで、予後が良いと言われていていますので、ぜひ一度検診をお受けになることをお勧めします。

（対象者には、3月末に受診券を送付しています。）

前立腺がん検診をお受けになる場合は、医師とよく相談し、内容を十分理解した上でお受け下さい。また、特定健診と同時受診もできます。

【結果について】

受診した医療機関で、結果の説明を受けてください。
（結果は郵送されません）

下記に書き留め、忘れずに結果を聞きに行きましょう。

検診日	_____	月	_____	日	_____
結果を聞きに行く日	_____	月	_____	日	_____

【検診の結果要精密検査になった場合】

精密検査は、確定診断のために必要です。

精密検査の方法は、主に「直腸診（肛門より指を入れての診察）」、「超音波検査」、「生検（最終的な診断のため、細い針を刺して組織を取る検査）」があります。

泌尿器科を受診し、詳しい検査をお受けください。（保険診療となります）

なお、精密検査からは保険診療となり、費用は個人負担となります。

問い合わせ

八潮市立保健センター
八潮市八潮8-10-1
048-995-3381

【前立腺がんとは】

前立腺は、膀胱の真下にあり、大きさは栗の実程度の大きさで、その中を尿道と射精管が通っていて、生殖活動をつかさどる器官の一つです。

前立腺がんは中高年の男性に多いがんで、近年は日本でも患者数が急増しているがんの一つです。前立腺がんは他の臓器のがんに比べ比較的ゆっくり進行するため、早期に発見し、治療を開始することができれば、治りやすいがんといわれています。

しかし、初期には自覚症状がほとんどないため、発見が遅れることがあります。発見が遅れ、がんが進行すると骨や他の臓器にまで転移することがあるため、早期に発見し、適切な治療を行うことが大切です。

【前立腺がんの症状】

初期は、症状がほとんどありません。

ある程度、進行するとさまざまな排尿症状がでてくることが多いです。

- ・夜中に何度もトイレに行く（夜間頻尿）
- ・尿に血が混じる
- ・排尿してもすっきりしない（残尿感）
- ・排尿までに時間がかかる 等

【P S A 検査】

P S A 検査は前立腺から血液中に分泌される前立腺特異抗原（P S A）の値を調べることで前立腺がんの可能性あるかを判断します。前立腺に異常があると血液中に流れ出すP S Aの量が増えるため、検査の指標として用いられます。

しかし、中にはP S A値が上昇しないがんも2～3%あり、検診で診断できないことがあります。

また、加齢と共に数値が高くなる傾向にあり、前立腺炎や前立腺肥大症でもP S A値が高くなることがありますので、P S A値が高い人が必ずしも前立腺がんとは限りません。

※なお、自覚症状がある場合や詳しい検査、相談をご希望の方は泌尿器科を受診してください。